

# 建築写真技術講習会報告

千葉県立市川工業高等学校 江口 敏彦

計画分科会では昨年度末に第2回建築写真技術講習会を開催しました。前年に引き続き実施したこの講習会には、7名の参加者を得て、好評のうちに終了することができました。以下にその概要を報告いたします。

平成17年3月29日

第1日目は東京都台東区、上野公園に残る近代建築を対象に、撮影実習を中心とした講習会を行った。講師の秋山実氏は建築写真だけでなく、大工道具の実用性と美しさ、物質の結晶のようなミクロの世界など幅広いテーマで作品を発表されている写真家である。

旧東京音楽学校奏楽堂の車寄せに集合した参加者は、開会の挨拶、講師紹介の後、玄関から奥の階段へと進んだ。上りきるとそこが2階のホールである。客席を舞台に向かって下り、前方の列に腰を下ろす。舞台中央には、昭和3年に侯爵徳川頼貞より寄贈されたというパイプオルガンが、照明を受けて浮かびあがる。静寂の中、まず小林昭雄館長より奏楽堂の概要が説明された。

奏楽堂は東京藝術大学音学部の前身、東京音楽学校の施設として明治23年に建設された。設計は文部省技師山口半六と久留正道で、音響にも充分配慮した当時としては画期的な講堂兼音楽ホールである。木造2階建て、棧瓦葺き、外壁は下見板張りで、主屋から左右に翼部が張り出す形態をとる。老朽化により昭和56年に使用が中止されたが、東京藝術大学から台東区が譲り受け、昭和62年に現在地へ移築保存され、翌年には重要文化財に指定された。



奏楽堂 概要説明  
(小林館長)



光源による色彩の変化についての説明  
(講師：秋山 実 氏)

説明が終わると、参加者は分散し、建物の魅力的部分を各々の感性で探しながら撮影に入ってしまった。舞台とパイプオルガン、壁面から出た持ち送り、小屋組のスラストに対処するためのタイバー、美しい照明器具の光など、被写体としては申し分ない。一時間ほどが瞬く間に過ぎた。再び集まった参加者は、公園内を歩いて次の撮影場所である東京国立博物館へ向かった。

表慶館前で担当者を待つ。表慶館は明治41年、後に大正天皇となる皇太子の成婚を記念して建てられた美術館で、設計者は赤坂離宮も手がけた

宮廷建築の名手片山東熊である。イオニア式の柱が美しい中央部にドームをのせ、両翼を広げたバロック様式の建築であり、そのダイナミックでメリハリのある構成は、戦前の建築物が多く残るここ上野においても際立っている。

しばらくして表れた案内の堀越龍太郎氏とともに、正面エントランスの巨大な石段を踏みしめて上る。玄関の扉が開けられるとそこには円柱が環状に並び、上方のドームから幻想的な光が降り注ぐ。床はモザイクで飾られ、光を反射させていた。

説明をうかがいながら館内を巡り、再び外に出て、今度は本館に向かう。渡辺仁の設計による本館は、昭和12年に建設された。設計競技の募集要項には「日本趣味を基調とする東洋式とすること」とあり、この建築はコンクリートの壁に瓦屋根をのせた、いわゆる「帝冠様式」となった。内部の中央大階段は踊り場から左右に分かれ、正面に掲げられた巨大な時計と相俟ってシンメトリーが強調される。



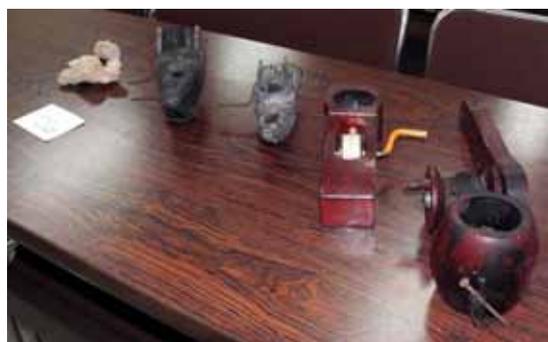
各自セレクト作業中

表慶館と本館の説明を受けた後、参加者は思い思いに撮影に入った。表慶館ではドームへ向かって上昇する吹き抜けの空間や色とりどりの床のモザイク、柱、ニッチ、レリーフ、曲線を描く階段など、写欲をかきたてられる。本館は表慶館に比べ、装飾的な要素は少ないものの、大階段を中心としたダイナミックな空間やそこに配された大時計、ステンドグラス、照明など、見ごたえ充分である。私自身撮影に夢中で、気がつくやうに集合時間であった。参加者全員で記念写真を撮り、充実したときを過ごした一日は終わった。

平成17年3月30日

2日目は場所を東京都江東区の森下文化センターに移して講習会を行った。

参加者はライトボックスとルーペを用いて、前日撮影したポジフィルムを時間をかけて観察し、その中からスライド投影用作品を選定した。各自スリーブ仕上げにされたフィルムを切り離し、数点の自信作をマウントにセットした。午前中の作業は秋山氏のアドバイスを受けながら行われ、作品が出揃った。また会場には、秋山氏の作品集や中国で手に入れられた大工道具などが展示され、作業と並行してそれらを手に取ったり、熱心に撮影する参加者もあった。



秋山氏より、中国の墨つぼなど、貴重な大工道具をご持参いただきました。

午後の講習会は作品の講評を中心に進められた。各自の作品をスライド投影し、秋山氏から御指導をいただいた。撮影の技術的な面や一人ひとりの作品の特徴、問題点などが丁寧に解説された。

引き続き秋山氏より光源の色温度やその違いによる室内撮影上の注意点について説明が行われた。高演色形の蛍光灯や色温度変換フィルター、撮影に適したフィルム等、専門的な話はたいへん興味深く、建築の写真撮影の奥深さを知ることができた。最後に秋山氏が中国で撮影した作品が紹介された。黄河中流域の地下住居（ヤオトン）やそこで暮らす人々の生活の様子、上空から撮影するため風にカメラを取り付けリモコンで操作する装置、見慣れない大工道具など、普段見ることのできない貴重な映像が次々に映し出された。質疑応答では模型写真についての話題にも発展し、講習会の締めくくりに相応しい内容豊かな時間であった。

計画分科会では多くの方々の御尽力により、今回の講習会を行うことができました。講師の秋山実先生、旧東京音楽学校奏楽堂館長の小林昭雄氏、東京国立博物館の堀越龍太郎氏、江東区森下文化センター所長の井筒章氏、ハクバ写真産業（株）の谷口宏司氏他担当の方々をはじめ、関係の皆様には心よりお礼申し上げます。

#### 建築写真技術講習会アンケート集計結果（意見は原文のまま全て掲載）

今回の講習会について

良かった 100%

講師の対応は

良かった 100%

・撮影前にもう少し教えてもらいたかった。

スタッフの対応は

良かった 100%

撮影場所・講習場所について

良かった 100%

本講習会への次回の参加について

公費に限り参加 20%

私費でも参加可能 30%

場所によっては私費でも参加可能 20%

その他お気づきの点があれば

・建築模型の撮り方などもお願いします。

・いつもありがとう、ご苦労さま。

シャッターを切るのはむつかしい。



講師を囲んで表慶館前にて  
<前段右から2番目が講師:秋山氏>

前年度に引き続き実施した本講習会ですが、年度末の開催ということもあり、参加者数が増えず、予算面で毎年の実施が困難になっているのが現状です。今後多くの先生方の御意見をうかがいながら、本講習会を再び実施できるよう努めたいと思います。御協力のほどお願い申し上げます。